

令和7年度 第2回健康福祉審議会健康分科会 議事録

日 時：令和8年2月17日（火） 13:30～14:55

場 所：かが交流プラザさくら 201 会議室

出席委員：橋本委員、光谷委員、下中委員、山村委員、米山委員、北井委員、中田委員、
中川委員、谷口委員、藪下委員、辻委員、後出委員、佐藤委員

欠席委員：新澤委員、下荒委員

（委員15名中13名の参加により過半数に達しており、健康福祉審議会の規定数に達しているため会議は成立）

次第

1 開会

2 あいさつ 北口市民健康部長

3 委員の紹介

委員交代 加賀市民生委員児童委員協議会 中川委員
加賀市女性協議会 下荒委員

4 議題

議事進行：北井会長

（1）令和7年度及び令和8年度の主な取組について

①健康増進事業について 資料1参照

あわせて新澤委員からの感想を紹介

質疑応答

藪下委員：加賀市の糖尿病有病率（HbA1c（ヘモグロビンエーワンシー））が県と比較して非常に高いが、考えられる原因はなにか。

事務局：みなし健診、治療中の方が多いということが考えられる。中でも加賀市医療センターからのみなし健診者がとても多く、加賀市医療センターには糖尿病の専門医の先生がいることから、医療機関との連携ができ、実際に数値が下がっている方も多い。医療機関での対策ができつつあると思っている。

北井会長：県のデータは、いわゆる隠れている人が多くて、加賀市は、糖尿病、有病の人が結構な割合で分かっているからという事か。

事務局：そう考えている。

北井会長：医者立場から言うとHbA1cの値8.0はダメであり、もう少し強化しなければならない。このデータ上、母数、いわゆるかかっている人、健診者数が、背景が違いすぎるので、もしかするとあまり当てにならないかもしれない。加賀市の方は、有病率が高いことはないと思う。

加賀市で太っている人が多いとか、この地区は高いことはないと思う。おそらく対象とする健診者の母数、背景が違うことによるのでは。このデータを見て驚いたので、病院、糖尿病専門医にも強く言うておく。

中川委員：こころの健康づくり対策で9月に自殺予防週間街頭キャンペーンをしたとあるが、自殺者が多いからのキャンペーンなのか。

事務局：夏休み明けの9月10日の週を自殺予防週間、新学期前の3月を自殺予防対策月間と国で定めており、市においても連携して啓発を行っている。

山村委員：報道で小中高の自殺者数が全国で増加傾向にあると聞く。市内小中学校で「教職員による体罰・性暴力に関する調査」を毎年行っている。その結果の共有は、教育委員会単位、学校単体までなのか。それとも健康課等市の関係課が共有し取り組んでいるものか。

北井会長：健康課は知っているのか。連携しているのか。

事務局：いいえ、健康課、学校、教育委員会の連携までに至っていない。

山村委員：こころの健康づくり対策として、小中学校でSOSの出し方に関する教育を行っているのにフィードバックがないのは残念。学校や教育委員会だけで閉じ込めず、問題が起きる前に共有すべきである。

北井会長：ぜひ、委員の意見を尊重して、教育委員会に投げかけてください。

北井会長：「プレコンセプションケア」という名称は分かりにくい。国（こども家庭庁）が決めたものかもしれないが、加賀市独自の政策を出す際は英語を避け、市民や医師にも伝わりやすい日本語を使ってほしい。

②予防接種事業について 資料2 参照

質疑応答

北井会長：带状疱疹ワクチンの接種率は何パーセントぐらいか。

事務局：現在、約20パーセントの方が接種完了となっている。

北井会長：インフルエンザはどれぐらいか。

事務局：速報値で現在、約57パーセントの方が接種完了している。

北井会長：新型コロナウイルスワクチンは少ないのでは。

事務局：今年度、自己負担額が増額となり、接種を控える方が多く、15パーセントとなっている。

北井会長：带状疱疹ワクチン接種が20パーセントは、医者の感覚からしてかなり優秀な数字であり、5歳刻みの接種推奨を周囲に勧めてほしい。

③感染症対策について 資料3 参照

あわせて新澤委員からの感想を紹介

質疑応答

藪下委員：コロナにかかった娘が医師から「3日間休めばいい」と言われたが、今のコロナはそれほど軽くなったのか。また、高齢者はインフルエンザにかかりにくいと

いう噂は本当か。本当なら若い人に優先して打つべきではないのか。

橋本委員：「3日間」は発症日からの計算等で誤解が生じている可能性がある。また、高齢者は過去の感染により免疫がある場合もあるが、変異株にかかると重症化・肺炎のリスクが高いため、高齢者こそ優先して接種すべきである。

中田委員：新型インフルエンザ等対策行動計画については、県の計画との整合性は取れている。県でも「IHEAT（専門職による支援の仕組み）」の登録・養成を行っており、市と協力していきたい。

北井会長：「IHEAT」は医療知識のない一般住民も参加できるのか。

中田委員：看護師、保健師以外でも医療職の方の登録になる。

後出委員：新型コロナウイルスの予防接種に市からの補助はどの程度出るのか。

事務局：今回の新型インフルエンザ等対策行動計画の対象となる感染症の中には、現行の武漢を起源とする新型コロナウイルスは入っていないが、今後、新たなウイルスが変異したり、現在、感染症法上5類となっているコロナウイルスが、急速に蔓延とか毒性により等級が上がれば対象になる。現行の新型コロナウイルスの予防接種の助成については7割で、自己負担は3割の4,600円で接種できる。

北井会長：市は感染症対応の訓練を独立して行う予定か。

事務局：新型インフルエンザ等対策行動計画の改定については、今後、意見をいただき、庁内の意見照会、パブリック・コメントを踏まえて改定し、令和8年度第1回健康分科会で内容を報告する。独立しての感染症対応の訓練というよりは他の訓練と合わせてどのようなものができるか検討したい。

(2) その他

- ・第7回 地域共生社会推進全国サミット in かがの開催報告について 資料4 参照

質疑応答

北井会長：サミットにシルバー人材センターからは参加されたか。

佐藤委員：車の誘導係をした。

北井委員：11月に立っての誘導は大変だったのでは。

佐藤委員：まだ若いですから。

山村委員：当日の会場1階の導線が分かりにくく、昼食時に混雑していた。

米山委員：食生活改善推進協議会として、柿の葉寿司を振る舞い、全国の参加者に大変喜ばれた。地域によって作り方が違うといった交流も生まれた。

北井会長：サミット次年度の開催地はどこですか。

事務局：大阪府泉佐野市で開催になる。

北井会長：山村委員が指摘した導線の課題等は、次回開催地に確実に引き継いでほしい。

事務局：3月に実行委員会を開催し感想や課題等を共有する予定であり、泉佐野市とはオンライン会議をはじめ引継ぎの準備をしており、来年度もよいサミットになるように努めていきたい。

北井会長：今回参加された皆さんも来年、泉佐野市に行って交流を深めてもらいたい。

5 その他

後出委員よりご意見

- ・健康分科会所管外にかかるご意見であったことから、事前に担当課に伝え回答を預かり、回答を行った。

質疑応答

山村委員：先日の手取川の断水騒動の際、ドラッグストアで水が売り切れた。命に関わることなので、水道水の安定供給を市として徹底してほしい。

事務局：新型インフルエンザ等対策行動計画の庁内の意見の照会時に、水道担当部局に水の安定供給確保について伝える。

北井会長：加賀市は水の供給体制はどうなのか。

事務局：手取川からの水が一時的に止まったと仮定しても、二つのダム、山中や山代の浄水施設、独自の井戸を持っており、ある程度供給は確保できると聞いている。

北井会長：加賀市は複数の浄水施設や独自の井戸を持っており、他市町と比較しても供給体制が強靱であると評価できる。

6 閉会